

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100610		
法人名	特定医療法人 浩洋会		
事業所名	グループホーム ゆりかもめ	ユニット名	かもめユニット
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町東栄町4丁目5-14		
自己評価作成日	令和5年1月13日	評価結果市町村受理日	令和5年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和5年2月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人一人の生活を一番に考慮し、その方に合った生活を維持していただけるよう職員みんなでその場面に添う声掛けや対応を心掛けています。母体である病院とも連携しご利用者様の健康状態の把握や緊急時の処置等、連携しながら対応しています。コロナの関係でここ数年出来ていなかった高校の実習生受け入れも、昨年10月に1年生2名の受け入れが実現し面会が制限される中、孫やひ孫を思われるのか喜ばれているご利用者様も沢山いらっしゃいました。ゆりかもめの献立で使用する野菜は、町内の業者に発注し配達してもらっています。ご家族様にも今の現状の中で、できる限りご利用者様の情報をお伝えしご協力いただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院や病院職員寮に近接し緊急時や災害時の協力関係が構築されている。利用者の希望を取り入れたり、職員の意見で備品を購入したり、利用者に必要な物品の購入や職員の業務改善提案等が運営に反映されている。心身の低下予防のためグーパー体操・介護予防体操・口腔体操・認知症予防体操・いきいき100歳体操などと、毎日実施しているラジオ体操・昇降運動とを組み合わせ実施している。おはぎ作り、干し柿作り、干し大根作り、居室前に自分の洗濯物を自分で干すなど利用者の残存能力を活かした支援を行っている。職員間の人間関係が良好で、職員が協力して利用者中心の考え方でチームケアを実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	かもめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆりかもめの理念を玄関やユニット内に掲げ、ご利用者様の立場に立って考える事を常に心掛け行動している。	理念の「同じ目線、同じ気持ちを忘れずに」を常に職員の目に止まるように、玄関やユニット内に掲示し、理念を共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にある為外出・面会も制限があり、なかなか家族とも自由に会えず行動も少なくなった。	コロナ禍で地域との交流は困難であるが、地元の高校の実習生を受け入れて、利用者にも職員にも良い刺激となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長や民生委員の方に送付している会議資料において、ゆりかもめでの行事や関わりについて報告している			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今はコロナ禍にある為、運営推進会議は実施していないが、会議資料として2ヶ月毎に区長や民生委員の方・各関係機関に送付している。	会議資料は区長、民生委員、役場の担当、地域包括支援センターに送付し、意見をもらえる体制を構築している。専門職以外の目線も貴重な意見として参考にしている。区長より地区の公園での花見を提案された事例がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事等あれば連絡を取り合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	報告や連絡を行い、意見や提案をもらえる協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	啓示事項は理解しているが、ご利用者様の状況に応じて、安全確保の為のその場限りのサッシや玄関の施錠は行う事がある。	施設長、管理者、ケアマネージャー、各ユニットリーダーで身体拘束適正化委員会を構成し、議事録と身体拘束に付随する資料も一緒に回覧し、現状把握と身体拘束をしないことの確認をしている。ユニット間は職員の付き添いで行き来している。		

自己	外部	項目	自己評価	かもめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は少なくなったものの、虐待については全職員で目配り・注意し防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、かもめユニットには制度を利用されているご利用者様はいない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・入居時、説明は十分に行い納得していただいているが、その後の経過でご家族様より質問が出て来た場合は、その都度お答えしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から意見が出た場合は、解決に努め運営に反映させるよう努力している。	利用者から自分の洗濯物は自分の部屋の前に干したいとの希望があり、洗濯した物を自分で干すようにした。現在外出制限があるため、買い物の希望を聞き職員が対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外部との会議はコロナ感染予防のため行われていないが、ユニット毎に議題があればカンファレンスやリーダー会を実施し、職員の意見を聞いている。	ユニットカンファレンスで職員から意見を聞いている。ユニットの備品購入に関する意見が多く運営に反映させている。業務に関する意見はリーダーを中心に見直し、改善を図っている。管理者が管理業務中心になったことでフリーで業務補助に入る体制になった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面等少し納得に欠ける部分はあるものの、他についてはほぼ整備されている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修はコロナの関係で参加出来ていないが、トレーニングについてはいつも心において気をつけながら行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの関係で、勉強会や同業者と交流する機会をもうける事が出来ないが、職員間では介護の質の向上を目指し取り組んでいる。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・入居時、面談等を行いご本人様の情報を収集し職員間で共有、希望や不安な事がある場合は傾聴し、安心した生活を送って頂けるように関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望等ある場合は、その都度お話を聞き対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様ご家族様に対する支援を見極め、多方面からの情報も交え、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションやゲーム、日常生活においては掃除等一緒に行い、お話を聞いたりする事で関係を築けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナの為、面会も制限があるが、毎月のお手紙やお電話でご本人様の状況をお伝えし、共にご利用者様を支えていくいい関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響により外出や面会も制限されているが、ご利用者様の若かった頃の話や思い出話を聞いたりし、関係を忘れてしまわれないように努めている。	他科受診は家族が対応している。家族との電話の取次や手紙等での関係継続を支援している。毎月発行のお便りの写真で利用者様の様子を伝え、家族に喜ばれている。		



自己	外部	項目	自己評価	かもめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昔話を聞いたり他者との会話の橋渡しをしたり、レクレーション実施やお手伝いをしていただく事で、ご利用者様同士の交流を通し関わりを支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様やご家族様からのご相談があれば、その都度必要に応じて対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の希望や要望に添うよう努めている。	コロナ禍で外出制限中であったが、主治医と相談して、帰宅欲求が強く精神的にも落ち込んでいた利用者の自宅への帰宅を支援した。思いや意向の表出が困難な利用者に対して、表情やジェスチャーで判断して思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の今までの生活歴をなるべく崩さないようにサービス提供を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット内における職員の勤務交代時の申し送り、ご利用者様の過ごし方を共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直し月に主治医の意見を聞き、NS・PT・ケアマネ・管理者・担当職員で担当者会議を行い、現状に即したケアプラン作成に努めている。	介護計画はユニット職員全員に周知し、いつでも見ることができる。担当者会議で家族から足の力があまり落ちないようにという希望があり、昇降運動を計画に取り入れた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を行い情報を共有しながらケアプランの見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の要望を十分に受け入れ、サービス向上に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大きなイベントの際は、外部よりボランティア等の依頼をしていたが、現在はコロナにより地域資源の活用は行っていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と相談しながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		利用者の殆んどが法人の医療機関をかかりつけ医としている。緊急時でも適切な医療が受けられる体制にある。他科受診は家族対応であるが不可能な場合は職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師に、ご本人様の気付きや変化があればそれを伝え、支援につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入退院に備え、病院関係者と常に情報の交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様が入居される際の契約書にも記載してある。終末期のあり方や重度化した場合については説明し、納得して頂き職員皆で支援に取り組んでいる。		昨年看取りをしている。重度化した場合本人・家族の希望・意向を踏まえ医師・職員が連携を図りながら安心して納得した最期を迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナの影響で訓練は出来ないが、ご利用者様の急変や事故等が起こった際は直ちに看護師に連絡、同じように母体の病院にも連絡しドクターの指示を受けるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、ご利用者様が避難する方法や場所は職員全員把握しており、地域との協力体制を築けるよう努めている。	津波を想定しての避難訓練をデイサービス・訪問看護職員の協力のもと実施している。災害対策に於いては隣接する医療機関・職員寮と連携している。食料品の備蓄もしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに対し、時折プライバシーに配慮した言葉づかいが出来ていない時がある為、注意していきたい。	利用者が居室で過ごす時は自分なりに過ごしてもらい、居間で過ごす時は運動やレクレーション等の声掛けするも無理強いせず、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の要望にできる限り寄り添い対応し、自己決定が出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせて無理の無いよう希望にそって支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容が自分でできないご利用者様には職員が支援し、散髪に関しては訪問美容や理容をお願いしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間毎にメニューを作成し、栄養が偏らないよう工夫し、ご利用者様に飽きられないメニュー作成を行っている。	好き嫌いが激しい利用者には代替を用意したり特に問題が生じた時は職員で話し合い情報を共有し食事を楽しむことができる支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態を考慮し、栄養バランス・水分量を考えながら支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	かもめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは自分でできないご利用者様は職員介助にて行っていただき、その他声掛け・促しにて実施。現在はご家族対応にて歯科受診されているご利用者様もおられる。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しパターンを把握し対応している。訴え時はトイレ誘導行い、又ドクターから指示のあるご利用者様に対しては看護師にて坐薬挿肛の処置も行っている。	布パンツの利用者が数名いる。又立位困難な利用者でも職員2名対応でトイレでの排泄を支援している。夜間に於いても身体機能に応じ介助や見守り確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時、牛乳飲用等実施後、処方されている場合は下剤投与行う。運動も進め、排泄時の腹部マッサージ・肛門部のマッサージ等、必要に応じて行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人お一人が入浴を楽しめるよう十分な支援を行っている。入浴実施表を基に、偏りが無いようバランスを考え支援し、それぞれの湯加減を把握し入浴介助を実施。体調を考慮し入浴日を変更する事もある。	脱衣所・入浴中に得意の歌や昔話を引き出す努力をしている。仕事の話・子育ての話・得意の歌を歌う利用者もあり、入浴が楽しい時間になるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適な睡眠が得られるよう午後からの仮眠は1時間程度を基本としつつも、その時々状況に応じてご本人様が自由に休息されている。シーツ交換・寝具干し・居室の掃除も適宜実施している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時に看護師が主治医や薬剤師より説明を受け、その旨職員に申し送りを行っている。その日の不在スタッフに対しても連絡ノートを活用している。下剤や頓服薬等はその時々状況に応じて調整し、日々の状態も含め看護師と情報を共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活歴を学び、持たれている能力を発揮して頂けるような作業や役割を提供し、ご本人様が好きな事が出来るよう支援している。コミュニケーションを計り会話を傾聴し、支援に努めている。			



宮崎県門川町 グループホーム「ゆりかもめ」(かもめ)

自己	外部	項目	自己評価	かもめユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、外出制限があり思うような外出が出来ない。玄関先や中庭での気分転換を心掛けている。		他科受診を兼ねてドライブしたりユニット間の知人の訪問を支援している。又園庭のシソの葉の摘み取りや干し柿作り・干し大根作り等を取り入れ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染予防の為、外出等も出来ない事もありご本人様の希望時や必要時、ご家族に依頼したり職員が代行等行い支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じてご本人様が書いた手紙を職員がポストに出したり、ご本人様が自ら電話をかけられたり、家族との繋がりを保てるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場を毎日掃除する事で清潔が保て、季節毎に飾る物を工夫し季節感を取り入れている。		どのユニットも空気清浄器を設置し定期的な換気採光・温度調節を行い共用空間の環境を整えている。ゆったりと他者との会話が楽しめるようにリクライニング椅子を数台設置したり、廊下の随所に椅子を置き日向ぼっこが楽しめるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とのコミュニケーションが保てるような配置や空間作りに努めている。控えめなご利用者様にも目配りの配慮を心がけ、快適に過ごせる場所の提供に努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活歴を尊重し、ご本人様の馴染み深い物を今でも使用されている。趣味も維持できるよう、好みの道具も持ち込まれている。		どの居室も使い慣れた寝具や家具が持ち込まれその人らしい居室作りがしてある。娘さんから送られた植木鉢を大事に筆筒の上に置いている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を考慮し、場合によっては一部介助と常に見守り注意を欠かさないう、残存機能を活かし自宅でもされていたような事を維持できるよう支援に努めている。			